

生き物を野山に放さないで!!

～日本の自然を守るために～



近年、外国産の多くの種類のカブトムシやクワガタムシの輸入が解禁となり、今では夏を中心に、ペットショップやホームセンターなどでも、比較的簡単に手に入るようになりました。手軽に生きている立派な本物に触れることができるのは、非常に喜ばしいことです。しかし、これが大きな危険をはらんでいることを忘れてはいけません。

夏が過ぎると、飼っていた虫を「かわいそうだから返してあげよう」と、野外に放す人がいますが、それによって次のような困ったことが起こります。

1. エサを独占してしまう!

(競争相手になる恐れ)

もともと日本にいるカブトムシやクワガタムシの、エサを奪ってしまう恐れがあります。

2. 地域性がなくなってしまう!

(遺伝子汚染の恐れ)

日本のものは冬の寒さに耐えることができますが、南国のものと同じ性質があるとは限りません。外国産ばかりではなく、日本のものでさえ、違う地方に放すことは大きな問題になるのです。

外見に大きな違いがなくても、生き物たちは、それぞれの土地の環境に合わせた独自の生活をしています。食べ物も、成長する季節も、地方によって違います。それらの習性は、長い年月をかけて身につけてきたもので、遺伝子に組み込まれているものなのです。それを人間が勝手に乱してはならないのです。

近年、池や川の魚がブラックバスのために大きな打撃を受けています。クワガタでも同じ道を繰り返さないよう、みんながしっかりルールを守らなくてはなりません。

いちど飼いだめた虫は……

絶対に野外に放さない!

ということをお守りください。

親切のつもりでも、虫にとっては大迷惑。手遅れになる前に、ちょっと考えてみませんか。みんなの心がけひとつで、たくさんの日本の虫たちが救われます。